

導

～MICHIBIKI～

《今号のニュース》

- 巻頭言
- おやさと研修会 開催
- 第10回ようばく保護司研修会九州ブロック大会 開催
- 表彰

天理教保護司連盟 広報部

巻頭言

「みんな丸い心で」

天理教保護司連盟委員 孔 岩雄

数年前、保護司会の研修で、栃木県喜連川社会復帰促進センターを訪問する機会を得ました。この施設は、罪を犯した人が留置される場所で、罪を悔い改め改心し、社会復帰できるように官民一体となって更生を支援する（いわゆる新しいタイプの初犯者向けの刑務所）です。そのセンターで特に印象に残ったのは、建物の入り口で多くの柱や窓が丸（円）をモチーフに作られていたことです。そのいわれを聞くと「犯罪者の多くは自己中心的。いくつもの角が立っている、人とぶつかりあう。そこで犯罪を犯し、入所してくる。その一人ひとりに丸い円のような角のない、心になつてもらいたい。」さらに、中庭に植えられた一本の樹木に目をやると、その一本の木が中心からずれ、周りを気遣うような姿で植えられていました。その訳は、「自己中心的な生き方から、少しでも相手を気遣い一歩身を引いて謙虚になれば、二度とこうしたところに入ることはない。」と収容者の改心を願い、その木に思いを込め職員の方が植えられたと聞き、感銘を受けました。犯罪を犯した人は、その環境等様々な理由があるにしろ、自己中心的に生きてきた故に、他を傷つけ、身勝手な行動で罪

を犯してきたわけで、その自己中心的な心を少しずらし、相手を思いやり、気遣うことができれば、ここに入ることもなかっただろう。また、出所する人にもこの木のように、自分を後にして、しっかり歩んでいくようにとのセンターの方々の思いが、心に染みしました。

ところで、教祖は、みかぐらうたに『やさしきこゝろになりてこい』手振りは額前より円を描き、やさしき心とは、まあいい心であると。さらに、『こゝろすみきれぐらくや』こころの角を切れ・澄みきれと、まあいい心で、とお教えくださいます。いつ、いかなるところにあっても、人をたすける、陽気ぐらしに向かわしめる、慈悲深い親心を感じます。

『論達第4号』に、「今日、世の中には、他者への思いやりを欠いた自己主張や、利他的行動があふれ、人々は、己が力を過信し、我が身思案に流れ、心の闇路をさまよっている。」と教えられます。教祖140年祭・三年千日活動の只今の旬、それぞれの地域で、年祭活動・論達の精神にかなう、おたすけ活動。他者への献身・互い立て合い助け合いの心を映すべく、こころ勇めてつとめさせていただきましょう。

令和4年度天理教保護司連盟 おやさと研修会開催

日時 令和4年8月25日（木）
会場 南右第二棟3階

新型コロナウイルス感染状況を鑑み、3年ぶりに対面での開催となった「おやさと研修会」は、8月25日（木）、南右第二棟3階にて開催された。連盟委員および会員に加え、関心ある方々など44名が参加した。

伊藤逸雄連盟副委員長の開会の辞、北嶋眞二郎連盟委員長のあいさつに続いて、清水宏泰氏（天理教明和大教会長・代務者・奈良県保護司会連合会副会長）が登壇され、「自立準備ホーム運営の実際」と題して講話された。

実際の運営として、詰所を拠点として受け入れると、修養科と同じ日課で生活させることができるメリットを挙げ、これまで10人受け入れたうちの3人が修養科へ志願したことを話された。更に、それに伴う多くの苦労や喜びなどを楽しく学んだ研修となった。

引き続き、質疑応答の時間では、対象となる人を受け入れる場合どこまでの責任がかかってくるのか、あるいは持つべきなのか等、現実的な問題を考える貴重な時間となった。

第10回ようばく保護司研修会 九州ブロック大会開催

日時 令和4年11月28日（月）～29日（火）
会場 熊本教務支庁
参加者 72名

令和4年11月28日～29日で熊本県熊本市の天理教熊本教務支庁（小森正一教区長）を会場に、ようばく保護司研修会九州ブロック大会を開催した。熊本教務支庁舎は5年前の熊本地震で倒壊寸前となり解体されたが、令和2年7月2日に新しい支庁舎を開所、木の香も匂う会場であった。

参加者は九州の熊本教区、大分教区、福岡教区、長崎教区、鹿児島教区、宮崎教区、佐賀教区、沖縄教区の八教区の各保護司、福祉に係わる方、来賓の方々を入れて合計72名が研修会に参加した。

来賓として熊本保護観察所長・古賀正明氏、熊本保護司会連合会会長・中山哲行氏、天理教布教部社会福祉課長・村田幸喜氏、九



州各教区長、記念講師として、脚本家・久松真一氏を迎えて開催した。初めに記念撮影が行われ、午後1時から伊籐逸雄保護司連盟副委員長の開会の辞、続いて北嶋眞二郎連盟委員長が主催者挨拶にて、「新型コロナウイルスにより連盟活動がなかなか進まず、ブロック大会も中止せざるを得ない状態が3年続きましたが、この度、再スタートとして10年ぶりに九州ブロックから開催する事が出来ました。（中略）表統領様が天理教はもつと外に向かって今の難渋たすけをしなければならないと言われました。保護司活動は現代の難渋たすけそのものである。保護司連盟は自立準備ホーム、少年補導委託の受け入れ教会の増加を進めている、等々と話された。来賓挨拶、来賓紹介と続き、その後、研修①「更生保護について」と題して熊本保護観察所長・古賀正明氏が講師をつとめられた。

古賀氏はパンフレット

トを用いて、保護司の歴史やこぼれ話、これまでの保護司活動の成果等々を話した。続いて研修②「各教区体験発表並びに現状報告（1）」において、熊本教区代表、田代九三氏。宮崎教区



脚本家 久松真一氏

代表、橘林盛志郎氏。鹿児島教区代表、野元廣和氏。沖縄教区代表、下地義和氏。と各代表の体験、教区の保護司活動の現状などを発表した。研修③、『NHKドラマ「生きて、ふたたび 保護司深谷善輔」を書いて』と題して、脚本家・久松真一氏が講演をされた。久松氏は天理高校、天理大学を卒業し、道友社に勤めるなど、10年ほど天理で過ごし、その後、脚本家として活動を始めた。講演ではこのドラマを書く事となった経緯や裏話、自身の体験した天理教にまつわる話をされ、保護司活動については、教祖年祭に向かう諭達の中にかなう、かけがえのない大切なおたすけ活動そのものであると話され、「人々のためにただ一条で頑張っているだけだ」と思っている方もみられた。

1日目の研修はここで終了し、その後、宿舎の東肥



大教会に移動し情報交換会が開かれた。

2日目、研修④では「天理教の社会福祉活動とおたすけ」という演題で、社会福祉課長・村田幸喜氏が天理教と福祉の流れ、今の社会福祉と天理教の大きなつながり等々話された。続いて研修⑤「各教区体験発表並びに現状報告(2)」では、大分教区代表、後藤正巳氏。佐賀教区代表、中島道弘氏。長崎教区代表、吉村孝雄氏。福岡教区代表、森田義明氏が各体



験並びに教区現状を発表した。研修⑥「天理教保護司連盟の目標の説明」として「全支部に1名以上のようなべく保護司を」と題して孔岩雄連盟委員が、「自立準備ホームの増設について」を原田浩連盟委員が説明をした。

閉会式では、本田和夫連盟委員による閉会の辞で、「この度は、熊本教区長様、熊本教区福祉部長始め先生方、熊本教区のスタッフの皆様方、東大教会の皆様方には本当にお力添えいただきました。ありがとうございます。」等々

お礼の言葉を述べ、3年ぶり10回目のようなべく保護司研修会九州ブロック大会を閉会した。

表彰

立教百八十五年下半年に叙勲された方

○藍綬褒章

吉田博之 (宮崎教区・此花大・日州分)

高橋和夫 (東京教区・牛込大・千山分)

○法務大臣表彰

竹本和道 (広島教区・笠岡大・福芦分)

誠にありがとうございました。

あとがき

昨年11月に行われた「ようぼく保護司研修会九州ブロック大会」では、事務局として参加させていただきました。準備から当日まで多くの方が協力くださり、自分にとっても勉強になることばかりでした。この経験を来年度の保護司連盟の活動に活かしていきたいと思っています。

高橋